

## 水辺の黄葉

山の木々が色づいていますが、水辺の紅葉・黄葉にはお気づきでしょうか。植生のうすい砂礫の岸辺には、一年草のタデ類が生えており、この季節、葉も茎もあざやかな赤に染まっています。また、黄色の代表は写真のマコモです。黄色といってもパステル調の淡い黄色で、その明るさから、この時期がもっとも見つけやすい植物です。



漢字で書くと真菰。古来コモの素材に使われたことからの名称で、今でも神事や仏事には使われているようです。カビの一種の黒穂菌に感染すると、新芽が肥大してタケノコ状になり、マコモタケと呼ばれる食材になります。最近では日本の各地で水田転作にマコモタケ栽培がおこなわれているようです。また、北米では近縁種アメリカマコモの種子が、ワイルドライスとして食べられています。

知和ウェットランドでは数カ所にマコモを植えています。人の食用にというわけではありません。水質浄化と、鳥たちへの食物提供が目的です。カモ類はこの種子や地下茎が好物のようですが、ひょっとしたら定住者のヌートリアに先をこされているかもしれません。